

長期メンテナンス症例から考える！ 経過観察の意味 歯科衛生士は患者さんとのように関わってきたのか

石原美樹（歯科衛生士／フリーランス）



AB判/120頁
定価 3,360円
(本体 3,200円 + 税 5%)
医歯薬出版刊
(2013年5月発行)

多くの尊敬する先輩方が、自身の臨床において10年以上を超える長期メンテナンス症例をまとめられていること、そしてタイトルの「経過観察の意味」に惹かれて手にしたこの本。時間を忘れ、いつの間にか自分の臨床と照らし合わせながら、あっという間に読み終えてしまいました。

本書は大きく三部構成されています。まず第一部では鷹岡竜一先生が「歯科衛生士にとっての経過観察の意味」をまとめられ、続く第二部の鷹岡先生、品田和美さん、村上恵子さんによる座談会で、その意味と重要性についてさまざまな角度からディスカッションされています。そして第三部では、その言葉を裏づけるような10症例が紹介されています。

ここでは、歯科衛生士界を牽引しているベテラン10名の歯科衛生士により、「患者さんとのかわり方」「症例の見方」「いまとは違って知識も技術も未熟ななかで悩んだり考えたりした症例」がていねいに振り返られています。初診から再評価にかけて出た結果を継続できている症例、また、長期にわたってみているがゆえに出てきた新たな問題に対応している症例など、どの症例も私たちの臨床現場でよく遭遇する症例であり、とても身近に感じるとともに考えさせられました。歯科

衛生士読者の皆さんには、第三部の10年以上経過観察している10症例をじっくり見て、感じていただき、自分の臨床を振り返り、そして重ね合わせながら読むことを一番お勧めしたいです。

10の症例の患者さんは、一人ひとりパーソナリティが異なり、状況も違うため、当然、症例の見方やコミュニケーションのとり方のポイントにも違いがあり、また担当歯科衛生士のかかわった時期（担当したときのDH経歴）にも違いがあるため、いろいろな角度から症例が考察されています。何より、どの症例も長い経過観察のなかで起こった変化に対して、先輩方が「何を見て」「何を感じ」「どう対処してきたのか」が簡潔にわかりやすくまとめておられ、後進である私たちへのメッセージとしてたくさんの思いが綴られています。

本書は、できれば歯周治療を始めて3、4年経った歯科衛生士からベテラン歯科衛生士に、ぜひ読んでいただきたいと思います。毎日何となく流れていく臨床のなかに、本当はこんなにもたくさんの「みるべき・感じるべきポイント」があることがわかると、自分の臨床の幅を広げるきっかけになると思います。私も現在、フリーランスとして複数の歯科医院にかかわっていますが、自分に足りない点や今後もっと学びたい点などを振り返りたいへんよい機会となりました。

同じ患者さんを長年にわたりみつづけることで、見えてくるものがたくさんあると同時に、若いときには理解しているようで理解できていない、“年をとる”ということの重みを痛感しています。現在の私がすこしその域に入ってきました。だからこそ、本書を読み、久しぶりに心が震え、そして胸が熱くなりました。これからを担う若手の歯科衛生士にぜひお勧めしたい一冊です。